

福島第一 廃炉 展望示す

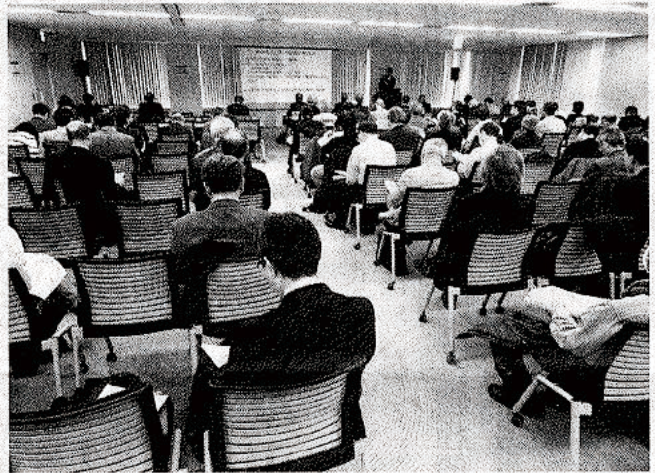
原子力学会 シンポ開き情報発信

日本原子力学会は6日、都内でシンポジウム「東電福島第一原子力発電所廃炉への取り組み」を催した。東京電力福島第一原子力発電所事故から間もなく5年を迎えることを踏まえ、事故原因究明や周辺環境の回復に向けた活動などを振り返るとともに、今後の廃炉への課題と展望について情報発信することを目的に実施。電力、メーカー、学界を中心に一般を含む約150人が参加した。

上塚寛会長は、「原子力学会は専門家集団として事故を防げなかったことを深く反省し、福島関連活動に総力を挙げ取り組んできたこととして、学会事故調査委員会を置き、事故の根本原因を明らかにした最終報告書

をとりまとめるなど、この5年の取り組みを紹介。「長期にわたる廃止措置について一般の方と共に考える機会になれば」と述べた。

プログラムでは原子力学会の田中隆則副会長（エネルギー総合工学研究所常務理事）が、環境回復や健康影響への課題に取り組む「福島特別プロジェクト」を中心に、



一般参加者とともに福島第一の今後を展望した

事故直後から現在までの学会の取り組みを解説。他学会との連携強化についても紹介した。

また山口彰・東京大学大学院教授は、福島第一

の廃炉の着実な実施へ向けた戦略について講演。放射線を中心としたリスク低減を主要課題に挙げた上で、意思決定の適切さを評価するための「成り立ち」が必要と指摘。学会として次年度から検討に着手するとした。このほか同学会福島第一原子力発電所廃炉検討委員会のメンバーが廃棄物問題や建屋の長期健全性などについて解説を行った。